

S S T L

NO. 73 2021. 7. 26

職場参加ニュース

職場・地域に固有名詞で共に

2021年度定期総会
・記念シンポジウム



6月20日(日)、記念シンポジウムに先立って開催された定期総会は、越谷市高橋市長からのメッセージで開幕。議長はかがし座理事長の吉田久さんとめだか事務局長の原さん。
今年度も例年通り事業報告の読み上げはせず、世一緒の障害者スタッフの面々が前に並んで自己紹介や近況報告を行った(写真)。どんな人々が職場や地域に入り込んでそこをどんな風に耕しているのかがもつとも大切なことだから。

2021年度事業計画では「多機能型事業所」への再編成も

雇用・就労と職場参加—社会実験として 障害者の職場参加をすすめる会 2021年度定期総会

当会は現在の障害福祉サービスが生まれる前の「措置制度」の時代に、福祉施設や医療の場に分けられている障害者も、そこから地域の職場に参加し、共に働いて地域で共に生きようと活動を始めました。その時当会はまだ任意団体でした。

他団体のみならず県や市とも協力関係ができ、越谷市では障害者地域適応支援事業ができました。県では市町村就労支援事業が発足し、越谷市はこれを機に、県の要綱に「地域適応支援」と「ピアサポート」を加え、当会に同市就労支援センター受託を依頼したため、当会は法人化してこれを受けました。

ただ、福祉や医療の場からの職場参加は積み重ねが必要。一方、この時期、長年障害者就労の主力だった町工場や店が危機に陥り、失業した人々がハローワークに押し寄せました。多くは手帳を持っていませんでしたが、市CWと相談し手帳を取って就労支援センターに送られてきました。障害者の数が増

え、就労支援センターはさしずめハローワークの下請け化した感じでした。

他方で重度や重複の障害があったり、ひきこもっていたり、福祉・医療の場にいたりする人の職場参加は後回しになってしまいかねません。そのため当会はセンター受託だけでなく、自主事業としてピアサポート等の場として世一緒を維持してきました。

世一緒での実践を踏まえて、市に対しセンターのありかたについて、随時提言してきましたが、10年で受託が終了。4年の準備を経て、就労移行支援「世一緒」を立ち上げたのも、自主事業と併行することで制度の運用や限界、改革の方向等をつかみ、提言し、社会の共有財産としてゆくためです。

その一環で今年度の事業計画で、B型との多機能事業所への再編を決議しました。一つの「社会実験」として関心を寄せていただければありがたいと思います。

お知らせ

8月から、せんげん台「世一緒」は
多機能型事業所となります。

これまでの就労移行支援事業所に加えて、
就労継続支援B型事業所を
併設することになりました！

B型事業所「世一緒」って、
どんなところなの？

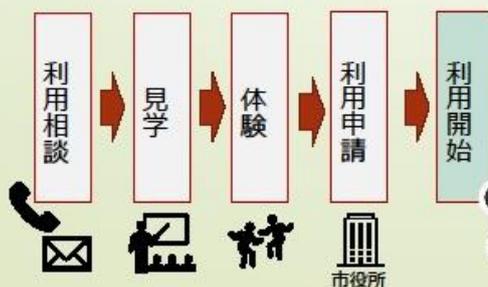


(答え)

- ◆一般就労が難しい人や自分のペースで働きたい人のために、働く場所を提供します。
- ◆仕事を通して学び、自分の成長を感じられるような支援を行います。
- ◆短時間の軽作業から始められます。
- ◆作業に応じて工賃収入を得ることができます。
- ◆利用期限も年齢制限もなく、一人一人のペースで働きながら、自立へとつなげていきます。
- ◆就労移行で培ったノウハウで、一般就労もあきらめません。
- ◆障害者手帳がなくても、医師の診断書があれば利用できる場合があります。

よいしょ

< B型事業所 利用までの流れ >

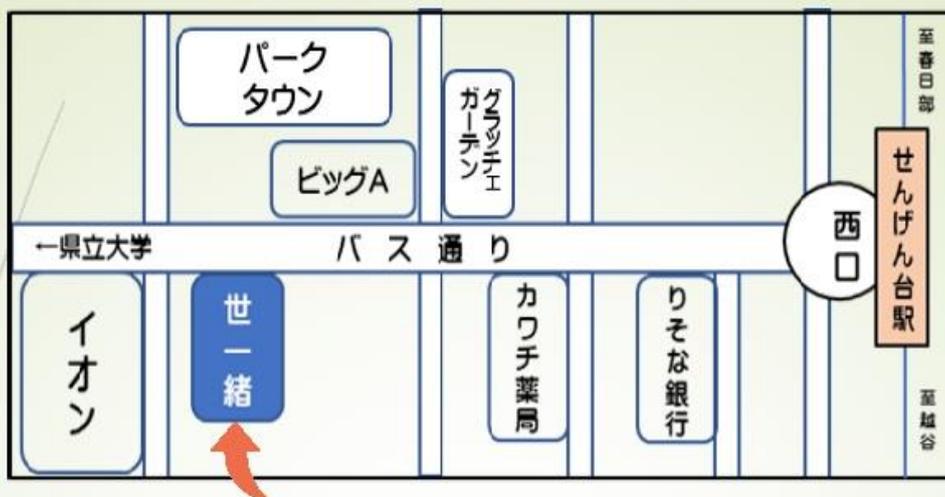


< 1日の流れ(通常活動日) >

10:00	朝礼・清掃
10:30	ウォーキング、体操
11:00	作業①
12:00	昼食
13:00	作業②
14:00	休憩
14:15	作業③
15:00	終礼

せんげん台「世一緒」への アクセス

東武スカイツリーライン「せんげん台駅」西口から徒歩7分。
駅前からバス通り沿いを「埼玉県立大学」方面にまっすぐ進み、
「イオンせんげん台店」の手前、左側にあります。



多機能型事業所 せんげん台「世一緒」

- ・就労移行支援事業所
- ・就労継続支援B型事業所



よいしょ

〒343-0041 越谷市千間台西3丁目1-16
E-mail dokkoisyo3116@yahoo.co.jp

TEL・FAX 048-971-8038

まずは、お問い合わせください!

運営:NPO法人 障害者の職場参加をすすめる会

2021年度定期総会記念シンポジウム パネルディスカッション

どこから越える？コロナ禍で見た社会の障壁

パネリスト：山田奈緒さん(毎日新聞東京本社記者)、日吉孝子さん(当会事務局員、障害者雇用で都内・県外企業就労経験)、伝田ひろみさん(さいたま市議、障害者の自立と政治参加をすすめるネットワーク代表)、羽田亮介さん(埼玉高教組書記次長 共有共生部、特別支援学校教員)
コメンテーター：山崎健晴さん(越谷市障害福祉課課長)、石塚卓也さん(越谷市人事課副課長)
コーディネーター：朝日雅也さん(埼玉県立大学教員) 後援：越谷市、春日部市

2時間余りにわたるディスカッションの中から、当会の責任で、要点を以下にまとめさせていただきました。

コーディネーター 朝日雅也さんの冒頭提起

「コロナ前からそうだったと思うが、いろんな分断が進んでしまっている。コロナがあるとその本質を見極められず、コロナのせいかなと思ったりするが、今日のシンポではコロナ禍で明らかになった地域内での分離あるいは閉塞状況をどう考えていくかについて考え合いたい」

パネリストの発言から

□ そもそも働き方が交わってなかったんだ



毎日新聞で2019年に雇用代行業問題をとあげた記者の山田奈緒さん：、

その後もこの企業向け雇用代行農園は減らずにむしろ増えており、協定を結ぶ自治体も増えている。ほっておけば増え続けるだろうと思う。

緊急事態宣言の時には自宅待機になった農園が多く、本来いらない職場だったんだなど。でもそれはここに限らず、会社にみんながいたからこそあった掃除やクリーニングなどの仕事が在宅ワークに切り替わったとたんになくなり、それを受け持っていた特例子会社の業務がなくなった、

それを聞いて今迄障害のある人となない人の働き方が交わってなかったんだなどと思った。私自身の働き方を振り返ってみると、まず新聞社に入ってから、事件も野球も福祉関係もいろいろ任せられ、その中で会社がこの人にはこれと振り分けて行く、それが障害者の場合はなくて、障害者の仕事はこれですと決まらずずっと変わらないんだなど。

簡単な仕事を切り出してこれを上げましようとい

うんじゃないかと、いまある経済活動に障害のある人たちも参加しようっていうのが、雇用促進法の原点だったんじゃないかと思うが、現実には遠く離れてしまった気がする。

□ めんどくさいことこそ大事なのに



雇用促進法の初期に大企業で働き、子育てを挟みまた県外で企業就労。今は支援の立場にいる日吉孝子さん：

私達障害者自身が働きたいんだ、雇用してほしいんだっていろんな活動をして、それを含めてできた雇用促進法だ

ったと私は思っている。それが今は、きついことは言わずにオブラートに包んできれいな言葉でいろいろ言ってるけど、直訳すると障害者ってめんどくさいよねって、そういう言葉にしか聞こえない。世一緒から一般就労した人たちがコロナ禍で障害者だけ自宅待機となり、世一緒が市内福祉施設に呼び掛けて実施している県営公園花壇整備の作業に参加させてほしいと同僚まで伴ってきた。

コロナに限らず、なるべく日常を淡々とやるように、配慮とか注意はするけれども、それをしながら日常を変えないように活動しているが、自宅に来ているヘルパーさんに「コロナになってこれだけ世の中が騒いでるのに、お宅のNPOの事務所は通常通りやるの？」って聞かれてびっくり。ZOOM会議では一番大事な会場の雰囲気は伝わらない。人と人が出会って一緒に動くことなく数字や建前は合わせる、そんな時代の流れにコロナが拍車をかけたと思う。

□ 雇用と福祉の連携、残された問題は

さいたま市の議員で、障害者の自立と政治参加をすすめるネットワーク代表の伝田ひろみさん：

私は自動車事故でさらに障害が重くなり「ニューノ



「一マル」というか、オンライン会議で助けられた面もある。ただ、やはり顔を見ながら話さないと本当の気持ちは伝わらないと思い、今日は出かけてきた。

同じ会派で情熱的な議員がおり、その議員の知り合いの重度障害で在宅就労している人が就労中は、痰がからまっても吸引してもらえない、トイレにも行けない、そんな中で就労するのは非常にきついということを代表質問の際に市長に直接ぶつけた。

おかげで、市の単独事業でということ、まずさいたま市重度訪問介護を就労中でもつけるという単独事業を作った。その影響もあり、昨年10月に雇用施策との連携による重度障害者等就労支援特別事業が、国の事業ででき、よかったなと思った。ただ自治体の方から手を挙げないと、だめ。最初13市町村、いま14。もうひとつは、公務部門は使えない。私は一昨年に大きな怪我をして、トイレも1人では行けなくなった。重訪も105時間利用できることになっているので、やれ嬉しやと喜んだけどだめだった。自立と政治参加を進めるネットワークの中にも重度の障害者があり、それぞれ仕事をしたり議員活動をやっているが、その介助費用が公的に出ないために仕事を全うできない。

さいたま市はエスプールと協定を結んでしまったが、雇用率が上がっても障害者を職場に迎えられないのは小さい時から分け隔てられているから。市長の公約で全小中学校に特別支援学級を作っている。親はその先の特別支援学校、グループホームと、特別な場を求めてゆく。

□ 分けることで生きやすい未来があるか



「軽度者」取り込み増殖する支援学校で、共に学び共に働く道を模索する教員・羽田亮介さん：

埼玉県では普通高校が今後10校減らされる計画があり、他方で高等特支と高校内特支分校が増えており

それらは全て「軽度の知的障害者」対象となっている。しかし、それによって高等部卒業生の就職率増加へ結びついていることを示す資料はない。

特別支援学校の進路の関係では、今エスプールプラス等の雇用代行企業は干されているが、内容が批判されているのではなく、学校を通さないやり方だというだけ。また、メーカーのビルの地下1階と2階にある特例子会社を見学したが、本社機能からパソコン入力とか、メールや掃除等の業務を切り出して、それをやらせてもらって、地下1階と2階で働き、地上1階から上の本社の人達との交わりって一切ない。それはどうなのか。でも一般的には、進んでるんだねとか、一緒に働いてるんだねとか言われている。

保護者の中にもこの子が将来親亡き後自立していくのにこの子が稼げないってところだと、エスプールプラスなんかはいいじゃないって話になっちゃう。だけどやっぱりそうじゃないことを経験してきた人達とか知っている人が伝えていくしかないんじゃないかなと思う。

コーディネーターからの問いかけ

□ 雇用率ありきでいいんだろうか



朝日さんからの投げかけ：

これまで積極的差別是正措置として設けられてきた雇用率だが、それが代行ビジネスの下地になり、就労能力により

序列化された働き方や暮らし方につながるとすれば、みなさんどう考えるか？

羽田さん：

雇用率があるからよい意味で進んでいるところもある。ただその働き方を問うていかなければと思う。

山田さん：

なかったらみんな雇わなくなるのでは。意識づけという意味での数字はないと進まないだろう。だが小さいころから別々に育ってきて、雇用の場面で人事担当者や障害者が突如出会ったのでは、互いの意識がかみ合うとは思えない。

伝田さん：

雇用率が上がるとさらに代行ビジネスが盛んにな

るだろう。本当に障害者がいろんなところで働けるようになるためには、やはりちいさいころから分け隔てられず一緒に学ぶことが何より大切だと思っている。

日吉さん：

雇用促進法が私たちの思いとは違うものになってしまった。施設とはまた違う形の隔離を感じ、当事者としては違和感も感じるし、腹立たしい思いをしている。

朝日さん：

コロナ禍でも同様だが、障害者だけが特別に守られるべき存在ではなく、一緒に感染予防にも関わる存在。障害がない人からすると特別な存在で「取り扱い注意」みたいな印象をあらためて認識させる雇用促進法のありかたをみんなで考えて行く必要があると感じた。

会場からのひとこと

大坂さん：

斎藤幸平著「人新世の資本論」の中に「外部化」という言葉が出てくる。大量生産・大量消費社会による先進国の豊かな社会は、南で劣悪な条件で働く人々にその代償を押し付けている。その「外部化」とビルの地下で働く障害者たちの姿が一致した。

新井さん：

エスプールをはじめとする障害者雇用の経済はどうなっているのか。

山田さん：

大体は1年契約、有期の正規社員。1年ごとに契約更新する形が多いと聞いている。

コメンテーターから

朝日さんより：あくまでも個人的な見解としておうかがいするもので、この内容を以てあのときこう言ったじゃないか等、言質を取ったりするものではないという前提でお話しいただきたい。

越谷市障害福祉課課長・山崎健晴さん



山田さんの話から感じたのは「本来必要のない仕事を作り出す」こと。これで仕事なのかという問いかけ。仕事することによって誰かに感謝されて、報酬をもらって、働いているほ

うも喜ぶ。これが一連の仕事だと思う。越谷市には介護人派遣事業という皆様が作り上げた制度がある。専門のヘルパーではなく市民の方々が支える側になって、障害者の方々の外出の支援とかを支える制度だが、ヘルパーをする方の中に障害がある方がおり、外出支援をして感謝されている。これが本当に仕事ではないかと感じた。

日吉さんの話は、制度ができたことを素直に喜べない、かえって不幸になってしまったんじゃないかという。私どもは制度を作ったり、国の制度に基づいて支援をできるよう日々努力しているが、大事なことはご本人、ご家族のご意思。そこを尊重しているつもりではあるが、引き続き重点的にやっていきたい。

伝田さんの話は、制度がかえって使いづらいと。今回の重度訪問のところは地域生活支援事業ということで、各地で独自の制度を創っていきなさいという組み立てになっているが、本来介護給付という形で国統一でやっていくものではと個人的には感じている。

あと、伝田さんの話で「同じ場に一緒にいること、同じ学校に通う」たとえば同じ学校にいてもクラスが分かれてしまったら全然交流がない。あらためて「はい」と思った。

越谷市人事課副課長・石塚卓也さん



私は人事課の障害者雇用室の中で仕事をしている。さいたま市でいうステップアップオフィスの越谷版で平成30年7月開設された。人事課は本庁舎にあるが、障害者雇用室はスペース

がないのでロビーをつぶしてオフィスを作った。昨日引越しをし、明日からは同じフロアで仕事をする。先ほど地下1階2階という話があったが、今までは閉鎖された空間で仕事していたが、これからは職員と同じで市民の皆さんの目にもあたる仕事として、当然窓口業務とか質問されるだろうから、社会に民間就職を目指す方、会計年度任用職員の方ということで募集の条件として入っており、徐々にステップアップしていただければいいなと思っている。

30年7月から2人、元年の7月から2人、令和2

職場参加をすすめる会

2021.8.1~10.31暫定版カレンダー

(2021年8月4日暫定)

2021年8月			2021年9月			2021年10月		
日	日中行事	ほか	日	日中行事	ほか	日	日中行事	ほか
1日	日		1日	水	当番会議	1日	金	しらこぼろ
2日	月	水上公園作業	2日	木	たそがれ	2日	土	
3日	火	耳鼻科診察	3日	金	しらこぼろ	3日	日	
4日	水	当番会議	4日	土		4日	月	水上公園作業
5日	木	たそがれ	5日	日		5日	火	
6日	金	しらこぼろ	6日	月	水上公園作業	6日	水	当番会議
7日	土		7日	火		7日	木	東越谷ハザ一物薬め?
8日	日		8日	水	たそがれ	8日	金	
9日	月		9日	木		9日	土	
10日	火	緑谷水辺の市中止	10日	金		10日	日	ハザ一値付け・しわけ?(耳鼻科診察場)
11日	水		11日	土		11日	月	水上公園作業
12日	木	たそがれ	12日	日		12日	火	緑谷水辺の市
13日	金		13日	月	水上公園作業	13日	水	
14日	土		14日	火	緑谷水辺の市	14日	木	たそがれ
15日	日		15日	水	耳鼻科診察	15日	金	
16日	月		16日	木	職場参加を語る会	16日	土	
17日	火	水辺の市予備日	17日	金		17日	日	ハザ一値付け・しわけ?(耳鼻科診察場)
18日	水	職場参加を語る会	18日	土	東越谷ハザ一物薬め?	18日	月	
19日	木	たそがれ	19日	日		19日	火	水辺の市予備日
20日	金	しらこぼろ	20日	月		20日	水	職場参加を語る会
21日	土		21日	火	水辺の市予備日	21日	木	たそがれ
22日	日		22日	水	たそがれ	22日	金	水上公園作業
23日	月	水上公園作業	23日	木		23日	土	
24日	火		24日	金	しらこぼろ	24日	日	
25日	水	ピアサポート研究会	25日	土		25日	月	水上公園作業
26日	木	総合課交渉1日目?	26日	日		26日	火	
27日	金	しらこぼろ	27日	月	水上公園作業	27日	水	ピアサポート研究会
28日	土		28日	火	耳鼻科診察	28日	木	たそがれ
29日	日		29日	水	たそがれ	29日	金	しらこぼろ
30日	月		30日	木		30日	土	
31日	火					31日	日	

の中は、リハビリを兼ねた1~3時間内の屋外のアルバイトです。グループでやるので、初めての方でも大丈夫です。は、業焼きのある人や他の人々が日替わりゲストとなって、暮らしや仕事を語り継ぎます。あなたもどうぞ！

○茶色の手のスケジュールは、主に連携団体の主催行事で、一緒に参加できるもの紹介します。

○ほかのスケジュールは、主に小グループでの講座やミーティングです。詳しい内容についてはお問い合わせください。

職場・地域ひろがりつうしん

●WEBにも登場、しらこぼと笛

BRUTUS 会員登録・ログイン 2021



雑誌 BRUTUS のHPに、昨年暮れ同誌の「みやげもん」欄に載った「しらこぼと笛」の記事がアップされており、世一緒で障害者スタッフの癸生川さんが絵付けをしている写真も添えられています。ぜひご覧ください。【<https://brutus.jp/article/929/36750>】

●水上公園花壇、夏の花に衣替え



ルビア、マリーゴールド、ペチュニアがいま満開です。就労 A,B、移行、生活介護等の施設から毎回 20 数人が参加して除草や花がら摘み、灌水を続けてきました。しらこぼと笛が開かれるかは微妙ですが、ドライブやサイクリングがてら色とりどりの花見にお出かけを。

●2019年度すいごごカフェ年誌完成

すいごごカフェは 2017 年度から毎週開催。毎週お招きするゲストのトーク内容は自分の歴史が主で、聞きに来る方は 10 数人～20 人程。今回の 2019 年度の年誌は全 52 ページ。1年間・51 回のすいごごカフェのゲストトークが一部質疑応答も交えて収録されてい

NPO 法人 障害者の職場参加をすすめる会

すいごごカフェ年誌

2019.04.03～2020.03.25



ます。この情報発信により、他地域からのゲストも徐々に増えています。誰でも参加できますので、時間が空いた時には世一緒にいらしてみてください。

●活動を積極的に発信していくために



6月10日(金)、Love Shirakobato プロジェクトは、県庁内福祉の店アンテナショップかつぽで、例年この季節に行っているかつぽフェスタが秋に延期になった代わりに、連日関連団体交代で行われている店頭販売にしらこぼと笛を抱えて参加しました。

●共に働く街をめざす自治体提言



6月21日、昨年暮れの「共に働く街を創るつどい2020」で発表した「共に働く街をめざす自治体提言」を越谷市の高橋市長へ手渡し、副市長や福祉部長、障害福祉課、人事課、経済振興課等と、新庁舎4階で懇談を行いました。高橋市長からは「障害者も健常者も認め合うことが一番大事」とのコメントをいただき、各課とも具体的な情報・意見交換ができました。ありがとうございました。

すいごごカフェ 7/28~9/1 1時半のメニュー

7月28日(水)

荒井 義明さん

介助付き自立生活者

26日はせんげん台駅一輪

重度障害者として 波乱万丈の人生

昭和30年大宮生れ。生まれた時は健常児？だったが半年で熱が出て病院に行ったら脳性麻痺。10歳北養護入学。野島さんと出会う。22歳で洗川の施設。30歳で退所。32歳で床屋の2階で知的障害？の木元君とルームシェアするも半年でケンカして出て市営住宅に入り今に至る。

8月4日(水)

橋岡 大輔さん

べしみ通所者

私の街歩きマップ

どこから来てどこへ行くのか？白杖をついた大きな体が街の空気をゆらゆらさせながら行く。この街で育ち成人し徐々に障害が進む中、街のイメージ地図はいかに形成されたか。

8月11日(水)

向井 みどりさん

NPO かがし座職員

24年前もらったピラ

約24年前のこと。私の知り合いが越谷駅で介助者募集のピラをもらい、そのピラを私にくれた。そして、せんげん台駅で赤い車と待ち合わせをした。

8月18日(水)

お休み

残念ながら中止。

浦和の街で「障害のある人もない人も共に生きる街」をめざす **ちんどんパレード** 参加のためお休み

8月25日(水)

岡村 峰人さん

有機農業者

わが悠々自適な生活

18年前 NPO 法人みぬまファーム 21 に参加し田んぼで稲作。別の仲間と畑3反を借り野菜栽培。木下さんに紹介され「世一緒」と出会い米や野菜を出荷し、付き合いが始まる。

9月1日(水)

八木井 雄一さん

定期刊行物協会事務局

八木井流自立生活とは

バリアフリーとは真逆の狭い和式住宅だからこそ違って移動できる。養護学校から大学を卒えたからこそ共に学び育つことの大切さを感じる。県の会議でも人気の八木井流の源泉は



ちんどんパレード参加希望者は世一緒まで

Café News F



2021年3月10日 大塚真盛さん(元特別支援学級・学校教員)

最近、保護者の方から進んで養護学校に行くパターンがかなり増えてきた。安全・安心を重要視して、要するに子供に冒

険をさせたくない。各学校でも、特別支援学級を作ろうという動きがかなりあって。県の統計を見ても、生徒が減っているのにも関わらず、養護学校・特学の数っていうのはどんどん増えていて、20年前に比べたら倍以上。作れば生徒を入れなければいけないわけで、結局障害者を「作って」いくわけ。養護学校義務化という流れの中、知らないうちに、みんなと一緒にやろうってことはなくなってしまって。それが常態化してしまって、昔より状況が悪くなっている感じがする。



3月24日 野島久美子さん(埼玉障害者市民ネットワーク代表)

12月9日、武里食堂で昼を食べて、車椅子の位置を変えようとしたときに滑って落ちて

骨折してしまった。手術後に麻酔が切れたら痛くて痛くて病院中騒いで、看護師さんにそのたびに怒られた。病院は夕飯が早いから夜お腹が空くし、病院って本当に暇だなあと思った。だけど、大坂さんが毎日毎日ガラス越しから来てくれて、誕生日もガラス越しでおめでとうっていうのを書いた紙でわらじのみんなから祝福してくれて、わらじの会っていいなあって思った。

5月12日 清水泉さん(越谷市議・市民ネット)

1964年、東京都生まれ。92年から越谷住み。当時さいたまコープから買った牛乳がおいしくないと娘から訴えられ、直後に工場で薄めているというニュースが流れた。安心安全を求めて辿り着いたのが、何でも「自ら考え自ら行動する」ことを取り決めている生活



クラブ。そこで農薬、添加物、脱原発などの問題に触れ、海外にも研修や視察に赴き、多くのことを学んできた。2019年に市議になったが、生活協同組合生活クラブの運動の延長線上に今の自分があるのかなと思っている。



5月19日 糸賀延江さん(地域福祉一家の母)

娘の美賀子は1960年生まれ。越谷北高校に入学後1週間で初めて倒れたが、その後3年間は何もなく、東京デザイナー学院に進

んだ。しかし在学中にまた倒れ、その時に左半身マヒになった。最初は どうして私が?と言っていたが、わらじと出会って、自分よりもっと大変な人がいろんなことをやっていると衝撃を受けていた。そこから毎日新聞の「はないちもんめ小さな童話大賞」に応募して選者賞を受賞したり、「坂田君にナイスピッチ」という本を出版して賞をいただくなど、たくさんの方にチャレンジして、最終的には「障害っていうのは私の個性なんだから」と言っていた。脳幹部出血により40歳で亡くなったが、幸せな子だったと思う。



6月9日 平野栄子さん(わらじの会会計)

私の母は現在102才。大正8年生まれ。母は見合いで父と結婚したそうだが、父は家がどこかわからなくなるくらいの酒飲みだったもんだから、家庭団らんというのは私は一度も味わったことがない。母の在宅介護をして23年。父も腎不全になり腹膜透析を5年間していたので、合計28年間くらい介護生活が続いている。母は94才までは押し車で歩けてたけど、現在要介護認定5で全介護。願わくば、苦しまないで最後を迎えてくれないかなというのが最後の望み。わらじの方がどう?って聞いてくれたり、なんか持ってきてくれたり、そういうつながりが本当に必要なと思う。肉体的じゃなくて精神的に認めてくれる人がね。

